

あそびっくす通信

あそびっくす通信 2016-1号(20号)
発行：2017年3月31日
あそびっくす in 東小実行委員会
名張市桔梗が丘 7-1-86
名張市立桔梗が丘東小学校内
編集・発行責任：坂本直司

■ 花の苗植替え

5月28日(土) 実行委員会総会の後、子どもたちも参加して約3,000株をポットへ植替えました。

花を育てるということは、三段跳びのように思います。苗床に種を播く(ホップ)、ポットに植え替える(ステップ)、花壇やプランターに定植する(ジャンプ)。成長に伴ってより広いところに植え替えますが、子育ても一緒ではないでしょうか。小学校が苗床なら中学校や高校・大学がポットで、社会が花壇やプランター。社会でどれだけ大きな、綺麗な花を咲かせられるかは、苗床やポットの時代にいかにかかっているように思います。



大人も子どもと一緒に植替え

■ 大豆の種まき -1 学期週末課外授業-

《種まきの準備》

5月28日(土) 夢水田(平成8年度PTAと卒業生で設置)を耕運機で耕しましたが、2010年の稲作以来使われていなかったのでも苦勞しました。ただ、実際には種まき前日に降った雨のため夢水田を使うことが出来ず、プール横の畑だけで種まきをしました。



《種まき》

6月25日(土) 梅雨時で、しかも前日の天気予報は「雨」でしたが、当日9時には雨も上がり、15名の児童、10名の保護者の参加を得て「たねまきごんべえ in 東小」(大豆の種まき)を実施しました。講師をお願いした奥さんの完璧な事前準備と丁寧な説明のおかげで、子どもたちも慣れない手つきながら、畝たて、種まき、干し



草敷き、ネット張り、と一連の作業をしっかりとやる事が出来ました。

私たちは余裕を見て1か所に4粒ずつ播きましたが、農家のおじいさんに聞くと「大豆3粒」といって、大豆とは昔から3粒一緒に播くとのことでした。これには「一粒は鳥のため、一粒は土のために、一粒は自分のため」という意味があるそうです。農家の人は昔から「自分さえよければいい」とは考えなかったようですね。少し解説すると、土のためというのは、マメ科植物は空中窒素を固定する、すなわち肥料になる窒素を土中にもたらず能力があるからです。

■ 通学路花いっぱいいっぱい運動

6月25日(土) 午後、ポットへの移植後、学校で1か月育てた苗を地域の皆さんに無料配布しました。

「通学路で、花に水をやりながら子ども達を見守ってください」という趣旨は変えずに続けています。当日は雨模様だったので参加者がいつもより少ないようでしたが、マリーゴールド、サルビア、



コリウス、アゲラタムなど約3,000株を配布しました。配付の後は、8基の通学路プランターへ定植し、残った苗は8番町A,B公園や、バス通り沿いの花壇に植えて頂きました。

また当日集まった熊本地震への義援金14,350円は、日赤を通じて熊本へ送金しました。熊本の小学生たちの役に立ってもらうことを祈ります。さらにこの日は秋に予定のPTAバザーへの寄贈品もたくさん頂きました。地域の皆様ありがとうございました。

■ サマーキャンプ

8月11日(祝) 27名の児童と21名の保護者が参加して、東小のわくわく棟と中庭を使って恒例のサマーキャンプを実施しました。

内容は、定番のカレー作りで、わくわく棟の教室で作戦会議から調理の下ごしらえを行い、一昨年から始めた黄色い紙に危険を予測して記入する危険予知訓練を実施。今年は好天に恵まれ、まき割りから飯ごう炊さん、カレー作りを中庭で行うことができました。アトラクションは、7・8番町から寄付頂いた打ち上げ花火30発と、手持ち花火で大いに楽しみました。





作戦会議中



包丁も慣れました



いつも言っていることですが、キャンプでは包丁やナタ、マッチを使うので確かに危険は伴います。でも、その経験をしなければ子どもたちはいつまでたっても使い方を覚えることが出来ません。私たちスタッフは細心の注意を払い、危険予知訓練を行います。ご家庭でも子どもたちに正しい使い方を教えた上で練習させてあげてください。

サマーキャンプはカレー作りという毎年同じことを繰り返します。時には目先を変えて違うことをやればという意見もあります。しかし、毎年同じことを繰り返すことで、子どもたちは東小在学中に最大で6回の調理や薪割り、飯ごう炊さんの経験が出来ます。すべてが便利になった今の時代、何でも電気で、ボタンひとつで出来てしまう今だからこそ、自分の手と頭と五感を使った体験が必要だと考えます。



夏はやっぱり花火です



おなじみ雑巾がけ

サマーキャンプでは、毎年終了前にみんなで教室の雑巾がけをします。雑巾がけをすると掃き掃除だけでは取り切れなかった細かい砂やほこりをぬぐい取ることが出来ます。雑巾がけが終わった教室は空気が変わります。物理的には空気中を浮遊する細かいほこりが減少することなのでしょうが、なぜか心までもがすっきりします。子どもたちにはこの空気感を大切に感じ取ってほしいと思います。

「はきものをそろえる」
 はきものをそろえると 心もそろろう
 心がそろろうと はきものもそろろう
 ぬぐとときにそろえておくと
 はくとときに心がみだれない
 だれかがみだしておいたら
 だまってそろえておいてあげよう
 そろすればきっと
 世界中の
 人の心もそろおうでしょう < 道元禅師 >



■ あそびっくす in 東小 2016

11月19日(土) 全校児童と地域の方を対象とした6つの体験講座を開講しました。

● 1年生:チリモンモンスターをさがせ

開始直後の教室を覗いてみると、なんと騒がしい!これではちゃんと説明も出来ないのでは。任せたスタッフの方を心配しつつ巡回のため部屋を後にしました。ひと通りすべての体験講座の部屋を回って戻ってみるとシーンとした教室、「えっ?これがあの騒がしかった同じ部屋か?」と驚きました。なんと、子どもたちは真剣なまなざしで、見つけたチリモンのスケッチに集中しているではありませんか。1年生があればほどまでに物事に集中できるとは立派なものです。



● 2年生:科学教室

実験内容は、「ウルトラ浮沈C、ちょー簡単モーター、落ちて回る羽」の3つ。事前に講師の藤岡先生には「2年生に理解できる科学実験をお願いします」と伝えただけでしたが、さすがです。いろいろな引出しを持っている先生ならではの体験で、子どもたちからは「不思議だな」「なんでやる?」という驚きや疑問の連発でした。



「リンゴが木から落ちるのはなんで?」と子どもに聞かれたら「地球に引力があるからや」とか、「コップの上に盛り上がった水がなんでこぼれへんの?」と聞かれたら「表面張力があるからや」と大人は当たり前のように答えます。答えられるのは学校で習ったからで、今の私たちが万有引力の法則や、水の分子間力を発見したわけではありません。長い年月をかけて、ニュートンをはじめとする先人たちが物理現象を調べて法則性を見つけ、仮説を立て、実証実験を経て理論として確立させたものです。

本当の学習や研究は、法則の名前を暗記することではなく、現象をよく見て疑問を抱くところから始まることを学んでほしいと思います。今日のような経験を通じて、この中から将来の科学者が生まれることを期待します。

また、この日は藤岡先生がとてもいきいきして見えました。この教室で一番輝いていたのは先生だったかもしれません。

また、この日は藤岡先生がとてもいきいきして見えました。この教室で一番輝いていたのは先生だったかもしれません。



ウルトラ浮沈C

● 3年生:竹細工

4年ぶりにあそびっくす in 東小に戻ってきてくれた時(そわ)先生は、元高校の校長先生。定番のサワガニは以前よりバージョンアップして小型で精巧なものになっていました。これこそ日本が得意とする「カイゼン」モノづくりの世界です。先生は最近海外に出向いて竹細工の指導をされているそうで、この日もフィリピンから帰国直後に来てくださいました。

カニの胴体や足、ハサミといった部品は予め先生に用意頂きましたが、組み立てるのは子どもたちの仕事です。手先を上手に使ってモノづくりの面白さを体験できたことと思います。



先生も説明に力が入ります



部品を選んで組み立て中

● 4年生:バードコール

「パイ、パイ、キュッ、キュッ」何やら鳥の音が運動場のあちこちから聞こえてきます。すると、それに応えるかのように、どこからともなく集まったたくさんの鳥たちが上空を舞っています。運動場に出てきたのは4年生たち、みんな何やら手に持って、両手で動かしています。



そうです、これがバードコールといって、木の枝に穴をあけ、丸カンネジを差し込んだだけの単純な道具。このネジを回すだけで鳥たちも本物と間違うくらいの音が出るのでした。

今回あそびっくす in 東小に初登場のバードコールを教えてくださいましたのは、「NPO 森と木」の小田先生で、先生もこんなにたくさんのバードコールが同時に鳴って鳥が集まる姿を初めてご覧になったそうです。



少し時間を戻すと、ここは図工室。ナラやサクラなど硬い木の枝をノコギリで切って、ドリルで穴をあけます。穴があいたら今度はタップという道具を使ってネジを切っていきます。2~3センチのネジが切れたら、丸カンネジをねじ込んでいきます。固くても柔らかくても上手く鳴りません。木の乾燥具合と適度なガタが必要で、みんな試行錯誤で調整をした結果が、先に書いた運動場の出来事に繋がったのでした。



鳴り具合はどうか？

● 5年生:陶器作り

「おーい、5年生はどこで陶器づくりしてるんや?」、「え?5年生の教室やで」、「今、教室の前通ったけど、えらい静かで誰もいやへんみたいやで」これは、当日実際にあったスタッフ同士の会話でしたが、シーンと静まり返るほど5年生のみんなは陶器づくりに集中していたのでした。

今回のテーマは「陶器で作るクリスマスツリー」。薄く伸ばした粘土を円錐状に巻いて、そこに飾り付けをしていくというものでした。



講師の秦先生曰く、「高校生にも陶芸を教えているけれども、今日の5年生のほうが、高校生よりよほど発想が豊かで、面白い作品が出来上がった。」とのことでした。大人になっても豊かな感受性と豊かな発想力は持ち続けたいものです。

● 6年生:お菓子作り

いつもお世話になっている秦先生に教えていただき、6年生みんなで「サツマイモの蒸しパン」作りに挑戦しました。

女の子は嬉々として、男の子はちょっと照れくさそうに、でも一生懸命教えてもらった通りに粉を混ぜ、容器に流し込んでいきました。写真を見てください。女の子はちょっとおしゃれにバンダナと柄物のエプロン姿。



一方で男子は純白の給食着で身を固めています。キリッとしてなかなか決まっているではありませんか。世の中のシェフ、板前さんは圧倒的に男の人が多いんですよ。



男子たち、将来料理人を目指してはいかが？

最後に蒸しあがったパンをいただきましたが、その美味しいこと。男も女もありません、美味しいものはみんなを笑顔にします。子どもたちには、家庭でもお母さん、お父さんと一緒に料理を楽しんでほしいと思います。

● 講師の先生方



前列左から講師の先生方を紹介します。

- 藤岡先生：2年生の科学教室を担当、名張市教育センターの先生で、以前は東小の校長先生でした。
- 細川先生：4年生のバードコールをお手伝い。近所の大工さんで、花いっぱい運動のプランター製作指導者。
- 崎（そわ）先生：3年生の竹細工を担当、世界を飛び回る竹工芸作家で、あそびつくす in 東小とは第1回からのおつきあい。
- 秦先生：5年生の陶器作りを担当、青山陶窯という工房を伊賀市羽根に構える陶芸家。あそびつくす in 東小の講師として長年お世話になっています。
- 小田先生：4年生のバードコールを担当、NPO 森と木の代表、公園管理運営士で、今回初めて講師をお願いしました。ナラ枯れの対策や子どもたちへの薪割り体験などを企画。
- 秦先生：6年生のお菓子作りを担当、アドバンスコープの料理番組でもおなじみの料理研究家、辻クッキング心齋橋校の元校長。ご夫婦であそびつくす in 東小を支えてくださっています。

■ 秋の通学路花いっぱい運動

＜子どもたちと地域の絆づくり事業=名張市放課後子ども教室事業＞

11月19日（土）体験講座が終わった後、花の苗を無料配布しました。この事業は、名張市放課後子ども教室事業の委託を受けて、桔梗小、桔梗南小と共同で実施している事業ですが、パンジーの苗を種から育てるのが難しく、毎年苦労しています。それでも、開始10分前には雨の中をたくさんの地域の皆さんが集まってくださり、苗を持ち帰るとともに14,962円のご寄付を頂戴しました。ありがとうございました。



■ 大豆の収穫 -2 学期週末課外授業-



12月3日（土）サヤが茶色くなり、手で触っただけで弾ける収穫適期を迎え、しかも抜けるような青空のもと、参加人数は児童が6名、保護者が5名と少なめでしたが、飛び入り参加の人やたくさんのスタッフのおかげで、とても賑やかな収穫の日を迎えることが出来ました。

この日は、子どもたちも額

に汗して頑張ってくれましたが、それ以上に活躍したのは、前日まで東小の資料室に眠っていた「足踏み式脱穀機」でした。いつからあったのか誰も知りませんので、少なくとも20年以上前にどなたかが譲ってくれたものと思います。足踏みの往復運動を回転運動に変換するクラック機構と、昔からあった「千歯こき」の歯を円筒ドラムに植え込んだ構造は、現在のコンバインという機械にも使われている優れた機構です。

この機械のおかげで、脱穀も早く終わり、手選別を経て全部で10kgの収量がありました。この大豆を使って3学期には豆腐を作る計画でしたが、残念ながら3学期の週末課外授業は、インフルエンザの流行により中止となってしまいました。



みんなで選別作業



箕（み）に一杯の大豆

▼ 編集後記

- 今回から文字を少し大きくしました。そろそろ自分自身も小さな字が見えにくくなってきましたので。その分字数は減りますが、内容で勝負です。
- 桔梗が丘自治連合協議会のホームページ内に「あそびつくす通信」のバックナンバーをPDFで掲載させていただきました。カラーで見られます。
<http://www.kikyogaoka.jp/O5.open-space/OO.open-space-top.html>
- 地域で子どもを育てるとは
介護が必要な高齢の方を社会全体で支えようというのが「介護保険」なら、社会全体で子育てを応援しようという「子育て保険」があってもいいと思っていました。最近ようやく国レベルでの検討が始まったようですが、実は今から19年前の東小校区では、この考えがすでに始まっていたのです。それは、小学生が家庭にいないにかかわらず、校区内の全世帯から1戸当たり年間約100円相当の助成金を各自治会から出していただき、「あそびつくす in 東小実行委員会」が発足したことでした。これを決心くださった当時の方はもちろん、19年間継続頂いた歴代の区長さん、自治会長さんへの感謝を私たちは忘れていません。また、それを認め応援し、協力してくださった地域住民の皆さんには心から感謝しています。今後とも、地域の子どもを地域で育てる取組みにご理解ご協力の程よろしくお願ひします。
- ブログにも情報を載せていますので、下記URLを
<http://asobitukusu.blog.fc2.com/>
または、「あそびつくす in 東小」で検索。